

環境活動レポート

【期間 2011年4月～2012年3月】



都生工業株式会社

2012年4月9日 作成

1. 当社概要

認証登録範囲は全事業所を対象とする。

(1) 事業所名及び代表者名

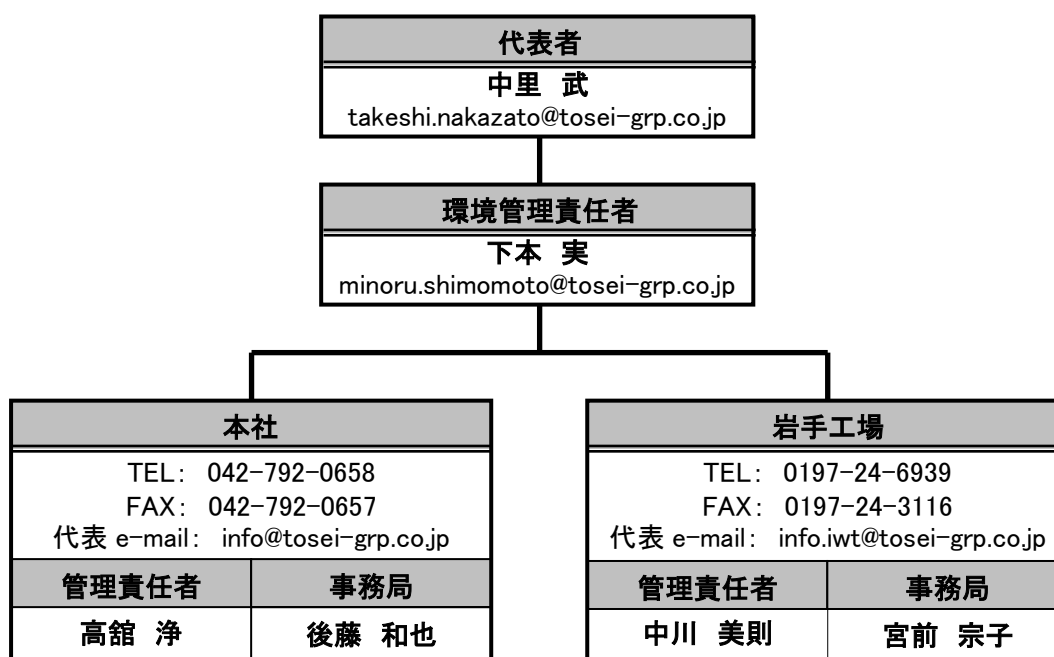
都生工業株式会社 代表取締役 中里 武

(2) 所在地

本 社 〒194-0035 東京都町田市忠生 1 丁目 28 番地 5

岩手工場 〒023-0132 岩手県奥州市水沢区羽田町字窪 34 番地

(3) 環境管理責任者及び担当連絡先



(4) 事業内容

本 社 各種ダンボール製函、発砲スチロールカット、梱包資材販売
 岩手工場 農機部品製造(鍛造)

(5) 事業規模

資本金 1,000 万円

	本 社		岩手工場	
	2010 年度	2011 年度	2010 年度	2011 年度
従業員数 [人]	13	13	19	19
売上 [百万円]	173	162	176	279
床面積 [㎡]	1,067	1,067	1,106	1,106
敷地面積 [㎡]	1,928	1,928	4,834	4,834

2. 環境方針

当社は次の環境方針に基づき環境活動を行っていきます。

基本理念

資源循環型社会を推進している都生工業株式会社では、ダンボールケース・梱包資材設計／製造・農機部品設計／製造における事業活動を通して、常に環境負荷の低減化を考えて行動します。

環境行動

1. エコアクション 21 環境経営システム構築に取組み、その実施運営において、環境関連法令・条例等を厳守するとともに、地域・業界・顧客の環境保全に関する要求事項に配慮し、環境活動の持続的な改善を進めていきます。
2. 環境目標及び環境取組計画として下記事項を重点項目に設定し、必要に応じてその内容を見直し、環境方針に整合した環境行動を実施します。
 - (1) 電力、燃料等の使用量を削減し、二酸化炭素排出量軽減のため、省エネルギー化を推進する。
 - (2) 適切な上水使用を実践し、総排水量の削減を推進する。
 - (3) 廃棄物を徹底的に分別し、古紙リサイクルを推進する。
 - (4) 化学物質(本社：酢酸ビニル、岩手工場：ニッケル)の使用量の把握と管理を行う。
 - (5) ダンボール箱製造工程における端材を再利用し、廃棄物量を削減する。
 - (6) グリーン購入を促進する。
3. 事業を通じ、資源循環型社会構築に貢献するため、エコアクション 21 環境経営の実施状況を内外に報告する。
4. 都生工業株式会社および社外にこの環境方針を周知する。

平成 23 年 4 月 4 日

都生工業株式会社

代表取締役社長

中里武

3. 環境目標

(1) 主な環境負荷の実績

環境目標設定のため過去 3 年間にさかのぼり、現状の環境に対する負荷状況を本社、岩手工場に
分けて調査した。

① 本社

		2008 年度	2009 年度	2010 年度
CO ₂ 排出量 [kg-CO ₂]		48,737	47,222	47,171
内 訳 [%]	電力	73.8	60.8	64.4
	ガソリン	11.8	19.1	16.3
	軽油	14.0	19.9	18.8
	L P G	0.4	0.2	0.5
廃棄物排出量 [t]		15.07	9.94	9.19
上水使用量 [m ³]		※なし	6.7	86.6

※本社では地下水のみを利用していたため、上水使用量の記録がありません。

地下水については 2009 年 9 月から流量計を設置。

上水については 2010 年 3 月に設置したため、2009 年度の記録は 3 月のみ。

② 岩手工場

		2008 年度	2009 年度	2010 年度
CO ₂ 排出量 [kg-CO ₂]		452,468	401,148	430,749
内 訳 [%]	電力	16.0	17.5	20.9
	重油	65.9	60.1	62.4
	灯油	1.3	1.7	1.8
	L P G	15.6	19.3	13.6
	ガソリン	0.5	0.7	0.7
	軽油	0.2	0.2	0.2
	廃油	0.5	0.5	0.4
廃棄物排出量 [t]		59.23	72.29	70.23
上水使用量 [m ³]		592	497	204

(2) 環境目標選定とその理由

基準年 2008 年度実績値より、2011 年度、中長期の目標値を設定した。

- ① 本社では CO₂ 排出量のうち、電力 75%、ガソリン、軽油で 25%程度であることがわかった。
LPG は使用しているが、他のエネルギー項目より消費比重が低いため、環境目標は設定しない。
(計測は実施する)
- ② 岩手工場では CO₂ 排出量のうち、重油 66%、電力 16%、LPG16%程度であることがわかった。
ガソリン、軽油は使用しているが、他のエネルギー項目より消費比重が低いため、環境目標は設定しない。(計測は実施する)
- ③ 本社での水道使用量に関しては生活用で消費比重が低いため、環境目標値を設定せずに活動する。
- ④ 2011 年 3 月 11 日発生した東日本大震災に伴う電力供給不足が予想される。目標値設定は 2011 年度通年で 2%削減を試みるが、これ以上の削減を各自意識するように心がけたい。
- ⑤ 岩手工場では集中生産方式により重油の消費を削減する。
- ⑥ 本社ではセビアン-A(ダンボール接着糊)に含まれる酢酸ビニル、岩手工場ではニッケルが PRPT 制度対象化学物質となるため、これらを管理徹底し、使用量を把握する。
- ⑦ 本社において製品製造時に発生するダンボール端材を利用し、他製品の製造を行い、廃棄物量の削減を図る。

(3) 環境目標

1. 本社

環境目標	基準値 2008 年度実績 2008 年 9 月～ 2009 年 8 月	目標 (対基準年)	中長期目標		
		通年 2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
1. CO ₂ 排出量削減 電力消費量削減[kWh]	79,204	2%削減	3%削減	3%削減	5%削減
		77,619	76,827	76,827	75,243
ガソリン消費量削減[ℓ]	3,617	5%削減	7%削減	7%削減	7%削減
		3,436	3,363	3,363	3,363
軽油消費量削減[ℓ]	3,865	5%削減	7%削減	7%削減	7%削減
		3,671	3,594	3,594	3,594
2. 廃棄物排出量削減 一般廃棄物量削減[kg]	640	7%削減	10%削減	10%削減	10%削減
		595	570	570	570
紙・ダンボール リサイクル[%]	100	100%	100%	100%	100%
		100	100	100	100
端材ダンボール商品化 による廃棄物削減[kg]	実測なし	300kg 削減	300kg 削減	400kg 削減	400kg 削減
		300	300	400	400
3. 水道使用量削減	実測なし	節水を 心がける	節水を 心がける	節水を 心がける	節水を 心がける
4. 化学物質管理・ 使用量の把握	実績なし	管理徹底	管理徹底	管理徹底	管理徹底
5. グリーン購入の促進	実績なし	エコマーク商品 3 品購入	エコマーク商品 3 品購入	エコマーク商品 5 品購入	エコマーク商品 5 品購入

2. 岩手工場

環境目標	基準値 2008 年度実績 2008 年 9 月～ 2009 年 8 月	目標 (対基準年)	中長期目標		
		通年 2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
1. CO ₂ 排出量削減 電力消費量削減[kWh]	191,070	2%削減	2%削減	3%削減	3%削減
		187,248	187,248	185,337	185,337
重油消費量削減[ℓ]	110,080	3%削減	5%削減	5%削減	5%削減
		106,777	104,576	104,576	104,576
LP ガス使用量削減[kg]	23,575	2%削減	2%削減	3%削減	3%削減
		23,103	23,103	22,867	22,867
2. 廃棄物排出量削減 一般廃棄物量削減[kg]	310	5%削減	7%削減	10%削減	10%削減
		294	288	270	270
紙・鉄屑 リサイクル[%]	100	100%	100%	100%	100%
		100	100	100	100
3. 水道使用量削減[m ³]	592	4%削減	4%削減	5%削減	5%削減
		568	568	562	562
4. 化学物質管理・ 使用量の把握	実績なし	管理徹底	管理徹底	管理徹底	管理徹底
5. グリーン購入の促進	実績なし	エコマーク商品 3 品購入	エコマーク商品 5 品購入	エコマーク商品 5 品購入	エコマーク商品 5 品購入

4. 環境活動計画と実績

(1) 環境活動取組項目

当社は環境活動における環境への負荷を軽減するため以下の取組を実施し、その達成状況、活動実施状況を毎月エコアクション会議で報告すると共に、確認と見直しを実施しています。

項 目	適 用	
	本社	岩手
(1) CO₂排出量削減		
①休憩時間における工場内設備の電源OFF	○	○
②不要照明、電気製品の電源OFF（社内に節電掲示）	○	○
③作業終了時の電源OFF、消灯確認	○	○
④不要天井蛍光灯の排除	○	—
⑤エアコン温度管理の徹底の実施	○	○
⑥商品配送・収集計画の効率化	○	—
⑦車両点検整備の実施	○	○
⑧エコドライブの実施	○	○
⑨重油使用量を毎日計測し、製造商品と使用量を把握	—	○
⑩効率の良い製造計画	—	○
(2) 廃棄物排出量削減		
①廃棄物分別の徹底	○	○
②廃棄物量計測の実施し、廃棄物量を把握	○	○
③両面印刷・縮小印刷・裏紙使用の実施	○	○
④古紙・ダンボール屑・鉄屑のリサイクル徹底	○	○
⑤ダンボール端材を再利用し、廃棄物量を削減	○	—
(3) 水道使用量削減		
①社内節水掲示により手洗い時の節水を徹底	○	○
②冷却水の節水を徹底	—	○
(4) 特定化学物質の管理徹底と使用量の把握		
①酢酸ビニル	○	—
②ニッケル	—	○
(5) グリーン購入促進		
①エコマーク・グリーンマーク商品購入の拡大	○	○
②コピー用紙（エコマーク商品）は白色度を下げたものを購入	○	○

(2) 環境活動実績

① 本社

環境目標	目標値	実績値	評価
1. CO ₂ 排出量削減			
電力消費量削減[kWh]	77,619	67,302	○
ガソリン消費量削減[ℓ]	3,436	2,506	○
軽油消費量削減[ℓ]	3,671	3,228	○
2. 廃棄物排出量削減			
一般廃棄物量削減[kg]	595	293	○
紙・ダンボールリサイクル[%]	100	100	○
端材ダンボール商品化による廃棄物削減[kg]	300	210	×
3. 水道使用量削減	節水を心がける	実施 地下水:138.3 ℓ 上水 :102.4 ℓ	○
4. 化学物質管理・使用量の把握	使用量把握 管理徹底	実施 酢酸ビニル含有量 480 g	○
5. グリーン購入の促進	エコマーク商品 3品購入	実施 年8回 11品目	×

② 岩手工場

環境目標	目標値	実績値	評価
1. CO ₂ 排出量削減			
電力消費量削減[kWh]	187,248	192,787	×
重油消費量削減[ℓ]	106,777	112,560	×
LPガス消費量削減[kg]	23,103	26,645	×
2. 廃棄物排出量削減			
一般廃棄物量削減[kg]	294	439	×
紙・鉄屑リサイクル[%]	100	100	○
3. 水道使用量削減[m ³]	568	138	○
4. 化学物質管理・使用量の把握	使用量把握 管理徹底	実施 ニッケル使用量 1,151kg	○
5. グリーン購入の促進	エコマーク商品 3品購入	実施 年10回 52品目	○

5. 環境活動の取組結果の評価と今後の対応

(1) 本社

① CO₂排出量削減

全ての項目に対し目標値達成ができた。

特に電力使用量に関しては昨年3月に発生した東日本大震災の影響により、電力不足が予測されたため、関心を寄せる1年となった。環境活動計画/実績表には前年度使用量、前年度比の項目を設け、削減程度をわかりやすく表記した。各自の電力使用量に対して意識も高く、前年度の各月使用量を全て削減できる結果となった。

ガソリン/軽油使用量に関しては目標値を上回る月もあるが、年間を通し目標値を達成できている。ガソリン使用量に関しては、営業担当者の引退により、営業車が10月から減少。このためこれ以降、目標値を大きく下回っている。今年度目標値は2008年度を基準値にしているため、差異が生じてきている。来年度目標値は今年度実績を観点とし、営業車別単位で設定する。

② 廃棄物排出量の削減

削減項目として目的は達成できたが、端材ダンボールの再利用の目標値としては達成できなかった。

端材使用によるダンボール製品への再利用は、端材がどの程度発生するか、また再利用できる商品にも限りがあるため、目標値を安易に設定することはできない。今後は特に目標値設定せず、実績値のみを記録として残し、廃棄量削減に努めることとする。

③ 水道使用量の削減

目標値はないが今後とも節水を心掛けるよう各自周知徹底する。

④ 化学物質管理・使用量の把握

購入量の把握、管理ともにできている。

従来セビアン A217 を使用していたが、低温時の乾燥後に異常があることから新規に冬季用のセビアン A218 を購入することになった。「製品安全データシート」を購入元より入手し、化学物質管理対象となる危険有害物質は「酢酸ビニル」のみであり、含有量もセビアン A217 と変わらないことから、特に項目を分類せず同一に管理することとした。

⑤ グリーン購入

在庫状況により毎月購入するには至らないが、購入するエコマーク商品が現状、ほとんど紙類と固定的な意識があるのが実情となっている。今後購入する物品に関して、エコマーク商品の代替商品がないか確認し、実績値を向上させたい。

(2) 岩手工場

① CO₂ 排出量削減

全ての項目において目標値達成できなかった。

東日本大震災により加熱炉が故障し、11 月まで修理を要した。この影響で 12 月以降の製造が例年以上の作業量となり、この期間の使用燃料が大幅に増加し今回の結果に至る。

自然災害による影響のためこのような結果となったが、来年度は順調に作業できるよう望んでいる。

② 廃棄物排出量の削減

目標達成できなかった。

これまで計測していた内容に洩れがあり、今年度より計測する項目が増えたため、廃棄量が増加する結果となった。

③ 水道使用量の削減

今年度より地下水を採用しているため、上水使用量が大幅に減少した。

再利用も含め、利用できる水資源活用の手法を更に促進していく。

但し、流量計がないため地下水使用量の計測が不可能である。

④ 化学物質管理・使用量の把握

使用量の把握、管理ともにできている。

⑤ グリーン購入

目標達成できた。

今後も購入品目を増やすよう努力する。

(3) 次年度の取組内容

取組項目は本年度と同様の項目に取り組むこととする。

但し、目標値に関しては基準年から状況が変わってきている内容もあることから、今年度の実績値を考慮し設定したい。

また事業内容に関連する環境活動項目については随時内容検討の上、新規に追加していきたい。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

弊社の遵守すべき環境関連法規、条例を確認した結果、違反のないことを自主的に確認した。

なお、これら法規制に関する関係当局からの違反の指摘、及び関連する訴訟は過去 3 年間ありません。

7. 代表者による全体の評価と見直しの結果

【開催日】

2012 年 4 月 7 日

【出席者】

代表取締役、環境管理責任者、本社社員

【開催場所】

本社 3 階

【議事内容】

残念ながら、岩手工場におけるCO₂排出量削減の全項目において、目標値を達成できなかった。

2011年3月の東日本大震災による影響を大きく受け、今回の結果になってしまったことは大変に残念に思われるが、自然災害における影響であるためやむを得ない。しかし、その中でも集中生産、効率的なエネルギーの使用方法を考え、更に勉強することが必要である。

目標に対し行動を起こすことは毎日の積み重ねが必要であり、社員1人1人が数値に敏感になることが目標達成の第一歩である。また、数値目標を設定することは会社(経営学)としてもとても有意義なことである。

今年も電力不足が予想されるため、なお一層協力をお願いしたい。

本社のガソリン使用量、岩手工場の地下水利用等、基準年と状況が変化してきている内容に関しては、妥当な数値目標の検討をお願いしたい。